

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教員の個人研究費・図書費などを確保する。	→ 文部科学省科学研究費補助金、厚生労働省科学研究費補助金などへの申請件数、採択件数。	B	B	B	B	B
2. 教員の研究専念時間を確保する。	→ 学部担当科目数の平均値および学内・学部内委員会数および開催数。	C	C	C	C	C
3. 教員の研究倫理に関する部内規程を作成し、これを遵守する。	→ 研究倫理に関する規程の成文化。	C	C	C	C	C
4. 教員の研究倫理に関する部内審査委員会を設置し検討を重ねる。	→ 部内審査委員会設置の要綱。	C	C	C	C	C
5. 教育研究支援体制を整備するためティーチング・アシスタントおよびリサーチ・アシスタント、実践教育支援室に助手・職員を置く。	→ ティーチング・アシスタントおよびリサーチ・アシスタント、実践教育支援室の助手・職員の数。	B	B	B	B	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員の個人研究費・図書費などを確保するため、文部科学省科学研究費補助金をはじめとする学外研究助成に申請し、獲得する。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 文部科学省科学研究費補助金の2014年度の新規申請件数は2件、申請率(新規)は34%、採択件数(新規・継続)は11件であり、外部資金の採択件数は3件(うち厚生労働省科学研究費補助金2件、受託研究1件)である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 文部科学省科学研究費補助金をはじめとする外部資金の申請件数および採択件数を増やす。	☆
		その他	☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部担当科目数や学内・学部に委員会数およびその開催数を調査し、教員の研究専念時間を確保することに努めてきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部担当科目数の平均は10.0であり、学内・学部に委員会数は22であり、教員の研究専念時間は十分には確保されていない現状にある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の研究専念時間を確保するために、学部担当科目数や学内・学部に委員会数およびその開催数を適正となるようように努める。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員の研究倫理に関する部内規程は、大学院諸問題検討委員会において作成に向けて検討している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員の研究倫理に関する部内規程は、作成できていない現状にある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の研究倫理に関する部内規程の作成に向けて、大学院諸問題検討委員会などを通じて検討をさらに進める必要がある。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員の研究倫理に関する部内審査委員会は、大学院諸問題検討委員会で設置に向けて検討している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員の研究倫理に関する部内審査委員会は、設置していない現状にある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教員の研究倫理に関する部内審査委員会の設置に向けて、大学院諸問題検討委員会などを通じて検討をさらに進める必要がある。	☆
		その他	☆
			☆
目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教育研究支援体制を整備するため、ティーチング・アシスタント(TA)および実践教育支援室に助手・職員を一定数確保している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ティーチング・アシスタントの数は6名であり、実践教育支援室の助手・職員の数は7名である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 教育研究支援体制を整備するため、ティーチング・アシスタント(TA)および実践教育支援室に助手・職員の配置を充実させる。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆